

平成 27 年度 水土文化研究部会企画セッション

「岡山藩の土地改良における水土の知」

日時： 平成 27 年 9 月 1 日 (火)
10 時 50 分から 12 時 20 分

場所： 岡山大学津島キャンパス一般教育棟 4 階 (第 9 会場)

内容・講演者

- 1) 江戸時代の新田開発における岡山藩の特徴
廣瀬裕一 (農研機構 農村工学研究所)
- 2) 近世岡山の農業遺構の特徴
馬場俊介 (岡山大学名誉教授)
- 3) 田原井堰および田原用水の歴史的意義
森元純一 (和気町歴史民俗資料館)
- 4) 沖新田干拓地の水管理(番水)から学び継承すべきこと
樽屋啓之 (農研機構 農村工学研究所)

企画セッションの概要

岡山県南部地域の水利システムは、用水路の起点から終点に向かい、開発された時代が中世から近世・現代と推移し、用水路を延長する際に加えられた様々な工夫がある。例えばソフト面では干拓地での番水の実施であり、ハード面では田原用水の「石の掛樋」や干拓地最末端の排水溜「大水尾」が挙げられる。本セッションでは、岡山の水利システムにおける工夫について議論する。

オーガナイザー：農研機構 農村工学研究部門 後藤 眞宏